

出題意図・解答のポイント

研究科	経済学研究科
課程	博士課程前期課程
入試種別	一般入学試験
筆記試験科目	共通試験(1科目選択)

【ミクロ経済学】

1.

2財2消費者の交換経済における基本的な事項を問う問題である。(1) 効用最大化条件(限界代替率と価格比率が等しい、など)を理解し、コブ・ダグラス型効用関数を使った効用最大化問題を解くことができるかを問う問題である。(2)すべての市場の超過需要の市場価値の和がゼロになる(ワルラス法則)という性質から導かれる市場の特徴の理解度を確認する問題である。(3)ワルラス均衡を理解し、(1)で求めた需要関数と需給一致条件から、ワルラス均衡を求めることができるかを問う問題である。

(1)「限界代替率が価格比率に等しい」あるいは「1円当たり限界効用が等しい」などを使って効用最大化条件を導く。 $(w_1^A, w_2^A) = (1, 0)$ と $(w_1^B, w_2^B) = (0, 1)$ に注意して、予算制約式を求める。効用最大化条件と予算制約式から需要曲線を導出する。ラグランジュ未定乗数法を用いて導出しても良い。

(2)二人の消費者の予算制約式の両辺を足し合わせて整理することで、すべての市場の超過需要の市場価値の和がゼロになる(ワルラス法則)という点を説明する。価格が正なので、一方の市場の需給が一致(超過需要がゼロ)すれば、もう一方の市場も必ず需給が一致することを説明する。

(3)(1)で求めた需要曲線と市場の需給一致条件を使って、ワルラス均衡における価格と資源配分を導出する。

2.

標準型ゲームにおける基本的な事項を問う問題である。(1)最適反応、純粋戦略ナッシュ均衡などを理解し、利得表から純粋戦略ナッシュ均衡を求めることができるかを問う問題である。(2)各戦略が相手の各戦略に対する最適反応になるか否かなどを検討することで、 a, b の範囲を絞っていく論理展開能力を問う問題である。(3)期待利得、混合戦略ナッシュ均衡、強く支配される戦略などを理解し、混合戦略ナッシュ均衡を求めることができるかを問う問題である。

(1) 利得表を使い、相手の各戦略に対する最適反応を求めることで、お互いが最適反応になっている(=純粋戦略ナッシュ均衡)戦略の組を探す。

(2)範囲を絞るうえで、例えば「プレイヤー1のMに対してプレイヤー2のCが最適反応になる必要があるので $b > 4$ 」や「プレイヤー2のRに対してプレイヤー1のUが最適反応になってはいけないので $a > 4$ 」などの根拠を示しつつ、 a, b の範囲を絞っていく。

(3) 強く支配される戦略はナッシュ均衡戦略にはならない(混合戦略ナッシュ均衡においては、その戦略を選ぶ確率は0になる)ので、これを逐次消去して、プレイヤー1はUとM、プレイヤー2はLとRの2×2ゲームで考えればよい。プレイヤーごとに各戦略の期待利得を計算し、混合戦略

ナッシュ均衡において正の確率を与える戦略の期待利得が等しくなることを踏まえ、方程式を解けばよい。

3.

経済成長理論の基礎となるソロー・モデルを用いて、時間を通じた所得の変化や二国間の所得格差を分析する。

sy と $(\delta + n)k$ を k の関数として図に描き、それらの差から k の変化 Δk を考える。

- (1) 当初 k が k^* (\equiv 定常状態の k) を上回り、その後は k^* に戻っていく。
- (2) s の上昇により図の sy が下方シフトするため、 k は新たな k^* へ減少していく。
- (3) 定常状態での c を最大にする貯蓄率 s は 0.5 となる。通時的変化は図を用いて考察する。
- (4) 一人当たり所得は $y = A\sqrt{k}$ となり、 k の値は初期条件から求める。

定常状態の条件式 $\Delta k = 0$ を k について解くことで、 k^* を外生変数で表す。

【計量経済学・統計学】

1.

- (1) 統計学の基本概念の理解を問う。標本から母集団を推測するという推測統計の本質に基づいて説明できるかを評価する。
- (2) 確率の基本的な計算能力を問う。余事象の考え方を理解しているかを評価する。
- (3) 順次抽出において、重複なしの確率を計算できるかを評価する。
- (4) 平均と中央値の定義を理解し、計算できるかを確認する
- (5) z スコアの計算と標準正規分布表の使い方および理解度を確認する。
- (6) 統計的検定を適切に行えるかを評価する。有意水準との比較、帰無仮説の設定などを理解しているかを確認する。

2.

- (1) 分散の計算が正しくできるかを確認する。
- (2) 回帰分析の導出において重要な、共分散の計算を理解しているかを確認する。
- (3) 回帰分析の基本的な構造、考え方を理解しているかを確認する。
- (4) 得られた結果から、予想の具体化をできるかどうか、現実に応用する力を問う。
- (5) 回帰係数の不確実性の定量化を理解しているか、統計的仮説検定の一連の流れを理解し、解釈・応用ができるかを確認する。

【財政学】

1～3いずれも、財政学に関する学部レベルの基礎知識を修得しているかどうか、修得している内容を自身の言葉で適切に説明できるかどうかを問う問題となっている。

1.

- (1) 市場の失敗が生じるケース、失敗によって生じる問題などを説明する。
- (2) 語句の意味に加えて、具体的な事例としてどういうものがあるかを記述する。
- (3) 公共財には2つの性質があること、それらの性質の内容と公共財の種類について説明する。
民間財と比較させながら説明できるとなお良い。

- (4) 語句の意味に加えて、当該課税の長所短所などを説明する。
- (5) 国債とは何か、建設国債との違いは何か、法的な発行根拠は何かなどを記述する。

2.

- (1) 租税原則の具体的な原則（3つ）を全て挙げ、各原則の内容を説明する。
- (2) 財政健全化目標として掲げられている 2 つの指標を挙げ、各指標の定義と健全化達成のための基準・目標達成年限について説明する。

3.

- (1) (2) を通じて総合課税の特徴を理解しているかどうかのポイントとなる。
- (1) については、何を“総合”するのかを説明すること。さらに、適用される税率の特徴や、租税理論との関係やシャープ勧告での扱いなどについても説明できるとなお良い。
- (2) については、租税原則（特に公平と効率）の観点からメリット・デメリットを説明できていることが求められる。

【経済史・経済学説史】

大学院教育の入り口として、入学試験は受験者がリサーチの出発点に立つために必要な、基礎的知識と論理的思考力を備えているかを確認する重要な機会となる。とりわけ経済史や経済学説史の分野では、歴史的事実や思想の系譜を正確に理解し、それらを基に基本的な問いに答える能力が不可欠となる。

この観点から、以下に提示する試験問題は、比較的平易な難易度で、かつ簡潔な解答を想定して設計されたものである。複雑で多角的な分析能力を問うよりも、各分野における核心的なテーマについての基礎的な理解度を測ることに主眼を置いている。

1.

本問は、近代世界史における二つの重要な工業化の事例について、受験者が基本的な歴史的事実を正確に理解しているか、そしてそれらを基に明確な比較を行えるかを評価することを目的とする。高度な概念的な分析よりも、具体的な事実に基づいた対比能力を重視する。

(1) 基礎知識の正確さ

イギリス綿工業における主要な技術革新(例:紡績機や力織機の発明)と、日本の製糸業における技術的特徴(例:在来技術と導入技術の融合)について、基本的な知識を有しているかを評価する。また、両産業を支えた労働力の供給源や性格の違い(例:イギリスの工場労働者、日本の農村出身の女性労働者)を説明できることが求められる。

(2)比較分析の明確さ

技術と労働について:イギリスが内発的な「発明」を重ねて労働生産性を高めたのに対し、日本は西洋技術を「導入・改良」して品質向上を図ったという経路の違いを指摘できるか。

原料調達と市場について:原料を完全に海外(アメリカ南部の奴隷制プランテーションなど)に依存したイギリスと、主として国内の養蚕業に依拠した日本という、世界経済における立ち位置の違いを明確にできるか。また、イギリスが圧倒的な生産力で世界市場を支配したのに対し、日本は外貨獲得を主目的として戦略的に生糸を輸出したという役割の違いを理解しているかを問う。

2.

本問は、20世紀の経済思想における最も重要な対立軸であるケインズとハイエクの思想について、その核心的な論点と、その後の経済政策思想に与えた基本的な影響を受験者が理解しているかを測ることを目的とする。思想の複雑な変容過程の分析や現代的応用までは求めずに、基本的な思想的対立とその歴史的意義の理解を評価する。

(1)核心的な対立点の理解

ケインズが不況の原因を有効需要の不足に求め、政府が財政出動などを通じて需要を創出すべきだと主張した。それに対し、ハイエクは、不況の原因を中央銀行による信用創造が引き起こす「過剰投資」にあるとし、政府の介入は市場の価格シグナルを歪め、事態を悪化させると主張した。この基本的な対立構造を、人名や著作にも触れつつ、明確に記述できることを評価する。

(2)後世への影響に関する知識

「大きな政府」への影響:ケインズの思想が、第二次世界大戦後の多くの西側諸国で採用された、完全雇用と福祉国家の実現を目指す「大きな政府」の理論的な支柱となったことを指摘できるか。

「小さな政府」への影響:ハイエクの思想が、1970年代のスタグフレーション後、ケインズ主義への批判が高まる中で再評価され、1980年代以降のサッチャー政権やレーガン政権が進めた規制緩和や民営化といった「小さな政府」を目指す新自由主義の思想的源流となったことを指摘できるか。

出題意図・解答のポイント

研究科	経済学研究科
課程	博士課程後期課程
入試種別	一般入学試験・外国人留学生試験
筆記試験科目	専門科目
<p>専門科目の問題はいずれも以下の3点を問うことを意図した出題となっている。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 学士課程及び博士前期課程で専攻した経済学に関する専門知識・技能を修得しているか。2. グローバル化が進展する現代社会に対応するための幅広い視野・思考力を有しているか。3. 研究の基盤となる判断力・表現力（外国語運用能力含む）を修得しているか。	